

技術情報

各関係機関団体の長
各病害虫防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病害虫防除所長

早植水稻におけるトビロウンカの発生状況について

飛来状況については、7月24日付け速報第5号でお知らせしていますが、早植水稻において短翅型率が73.9%と高く、一部では多発が心配されるほ場もありますので8月中下旬の発生状況の把握と防除指導をお願いします。

なお、普通期水稻の発生状況については、今後、発表する発生予察情報を参考にしてください。

- 1 作物名 早植水稻（5月上旬～6月上旬植）
- 2 病害虫名 トビロウンカ
- 3 発生量 並～やや多
- 4 調査結果（8月2半旬 早植水稻）
 - （1）短翅型率は平均73.9%と比率が高く、坪枯れが多発生した平成17年（68.0%）と同等であった（表）。これは7月8～11日頃に飛来した成虫（7月24日付け速報第5号参照）の次世代（第1世代）成虫であると考えられる。
 - （2）10株当たり成幼虫数（表）は、6月10日までに移植された早植水稻では、平均0.63頭（平年2.54頭、前年0頭）で、平年より少なく、前年より多い。発生圃場率は36.8%（平年53.5%、前年0%）で、平年よりやや低く、前年より高い。

表 早植水稻におけるトビロウンカの発生量と短翅型率（8月2半旬）

年次	短翅型率 (%)	トビロウンカ個体数 頭/10株			
		短翅型	長翅型	幼虫	計
本年	73.9	0.17	0.06	0.40 ¹⁾	0.63
H17年 ²⁾	68.0	0.17	0.08	0.58	0.83

注1) 幼虫は若齢幼虫主体で、7月8～11日頃に飛来した成虫の第二世代幼虫と考えられる。

注2) 平成17年は、坪枯れが県下で多発した。

5 防除上注意すべき事項

- （1）短翅型率が高く、この翅型は増殖率が高いため、密度の急激な増加が懸念される。
要防除水準に達したほ場では防除を実施する。本種の発生密度は、地域やほ場毎に異なるので、それぞれのほ場における発生状況を必ず確認する。
要防除水準(中考齢幼虫密度): 8月下旬100株当たり100頭
- （2）防除は、乳熟期の斑点米カメムシ類と同時防除を行う。防除薬剤については、「平成21年度普通作病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。また、すでに防除が終わっているほ場では、8月下旬に発生状況を確認し、要防除水準を越えている場合は補正防除を実施する。
- （3）防除にあたっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散（ドリフト）防止対策の徹底を図る。